

第五章 ハルピンにおける邦人遭難事件概況

終戦直前頻発した満鉄軍隊警察官の反乱の犠牲となった日系軍人警察官も多少あつたが、終戦直後暴動渦中で約三〇名。名の一般邦人が殺傷され、他方悪質ノ連兵の凌辱に死をもつて抗議した新妻薬店隣組有志十五名の横死、武田病院一家の自決などを始め数限りない犠牲がある。

かゝる人的物的被害の調査を実施中、ソ連軍当局の圧迫で中途にして調査を放棄せざるを得なかつたのでその詳細は掌握されていないが婦女子の凌辱はその被害件数中最も多い。

以下終戦の日より翌年四月末までに掌握された著名な不祥事件の概要について述べる。

一 昭和二十年八月十五日、満鉄管理部長某、副部長金又時弘の両名が公

安局に拉致さる行方不明。

二 同日波谷ハルピン学院長は家族二名と共に自決す。

三 昭和二十年八月十六日、国際運輸社員を主とする隣組全員が掠奪、暴

行を悲観して集団自決す。

四、昭和二十年八月十六日、江上軍（中国人）の日本人に対する叛乱が起り、十二名の死者と七名の負傷者を出した。

五、昭和二十年八月十七日、ハルピンセント南方で南拓団員一〇〇名が中国人の襲撃をうけ、死者一七名、負傷者一ニ名を出した。

六、昭和二十年八月十八日、土埋業者某（千田憲治？）が市公署跡で射殺され、いた。

七、昭和二十年八月二十二日、協和会員一四名が戦犯としてソ連に抑留された。

八、昭和二十年八月二十二日、警察幹部八名が戦犯としてソ連に抑留された。

九、昭和二十年八月二十二日、夜新妻薬局婦人がソ連兵の暴行をうけた。

一〇、昭和二十年八月二十三日、ハルピンに避難中の天理村南拓団男子一〇名が天理村に残した荷物の輸送のため郊外にさしかかった際、暴民の襲

撃をうけて死者二。名を出した。

二 福島縣人新妻喜多男夫妻はソ軍の暴行を恐れ、近隣者へ軍人二名を合
む一三名と共に地下室に隠れ居るのを、ソ連に発見され爆弾を投じて
自決した。

一三 昭和二十年八月二十五日、八区取引所構内で元憲兵二名が射殺され
た。

一四 昭和二十年八月二十六日、日本人労働者一二名が公園で射殺され
た。

一五 昭和二十年八月二十八日、ソ兵の焼打に逢い、堀口某以下六名の家族
が死亡した。

一六 昭和二十年八月三十日、ソ兵の暴行を悲観し、武田医院の家族三
名自決した。

一七 昭和二十年八月末キタイスカヤ街元録に宿泊中の邦人三名がソ兵
に射殺された。

一八 昭和二十年八月満鉄社員松本某は、一人娘がソ兵の暴行せんとす

究

0525

るのを身をもって之を護り、其の場に射殺された。

六、昭和二十年八月、楳山小学校長、前原某の母は、敗戦の報を聞き我子を激励した後、自殺した。

一九、昭和二十年八月二十三日より九月十二日までハルピン市において、邦人男子を逮捕して收容所に入れ、更に牡丹江捕虜收容所に送った。捕われた者は二四〇〇名以上で十月下旬頃までには釈放された。へ男狩り事件に関するもの。

二〇、昭和二十年九月六日、地段街北平ホテルにおいて、邦人三名が金島をかくしたとの理由でソソ兵に射殺された。

二一、昭和二十年九月八日、宮川総領事、古屋領事、大田領事、三井領事等ハルピンに集結しソソ軍と交渉中の北満公館員三名が理由なく、不法に抑留された。

二二、昭和二十年九月二十日、ハルピン「男狩」により收容された家人に面会に赴いた邦人婦女二名がソソ兵に拉致され行方不明。

二三、昭和二十年十月九日以降二十一年三月上旬までにハルピン市内におけ

0526

る戦争遂行のための指導的協力者と見られる、元日本軍人の部隊離脱者態
兵、特務機関、警察官、並びに民間指導者等の逮捕粛清工作が「ソ」軍
により行われ、五。名の邦人が「ソ」軍に護送された。

二四 昭和二十年十一月九日、日本難民委員会幹部九名が逮捕されそのうち
三部、中村、別所の三名が「ソ」軍に護送された。

二五 昭和二十一年四月二十五日、邦人三。名が中国共産党の邦人粛清工
作で監禁され、うち、三。名が処刑された。なお監禁後行方不明になった
ものは二七。名である。

二六 昭和二十一年四月二十六日、「ソ」軍の撤退後中国共産軍が邦人の元
官、軍人、民間指導者を逮捕して、人民裁判にかけ、道外公園を射殺
した事例も少くない。

0527